

練習船 新「勢水丸」建造

現「勢水丸」旋回窓(ワイパー)から見る

練習船「勢水丸」が、2009年1月に生まれ変わります。

新「勢水丸」ができるまで



発注・契約



2007年度の政府予算に認められ、造船を三菱重工(株)に発注、船の建造がスタート。

設計

練習船として海洋実習をするための装備、仕様を決定し、三菱重工(株)下関造船所と大学の関係者が何度も話し合い、設計図が完成。



モックアップ

実物そっくりに似せたブリッジの木製模型を作り、関係者が使い勝手などを確認しながら検討。



模型水槽試験



2007年12月14日 2008年2月1日
水槽に模型を浮かべ、気泡の流れ込みの確認や波に対する抵抗等をチェック。

起工式



2008年3月26日
工事の安全を祈願し、三重大学と三菱重工(株)下関造船所の代表者が溶接の電気スイッチをONに。

切断・組立



2008年3月～9月
用意された鉄板・鋼材等をカットし、設計図に基づき、次々と組み立て。

現「勢水丸」は

1980年に建造されて以来28年、「海洋の動く実験・研究室」としてフィールド教育の場を提供するとともに、水産に関する教育・研究の重要な役割を果たしてきました。

新「勢水丸」について ご紹介します。

三重大学大学院生物資源学研究所 教授
藻類学研究所 附属練習船建造委員長
前川 行幸



[URL] <http://www.bio.mie-u.ac.jp/seisuiamaru/>

命名・進水式

2008年9月頃



新「勢水丸」の晴れ舞台、正式に「勢水丸」と命名され進水となります。

艤装

2008年9月～12月

ブリッジや各部屋の装備を施します。



ブリッジイメージ図▶

試運転

2008年12月～2009年1月

いよいよ、海の上で性能をチェックします。



完成・引き渡し

2009年1月末



全ての工程が終わり、三重大学へ新「勢水丸」が引き渡されます。

vol.6 必見

現「勢水丸」の活躍が掲載されているよ



「三重大X」vol.6 (ホットNews:勢水丸)

新「勢水丸」は凄い船

新「勢水丸」の概要

- 主要寸法
 - 全長……約50.90m
 - 幅……8.6m
 - 深さ……3.75m
 - 計画満載吃水……3.30m
- 総トン数
 - 国内総トン数……約320トン
- 定員
 - 学生……24名(予備2名)
 - 教員……2名
 - 乗組員……16名

凄① 海洋観測、大気観測設備

凄② 漁ろう設備

- トロール網(底曳網) 漁業設備
- いか釣漁業設備
- 延縄漁業設備
- 曳縄漁業設備
- 計量魚群探知機
- 魚網監視装置

凄③ 海洋ブロードバンド通信

凄④ コンパクトでシンプルな電気推進機

凄⑤ ジョイスティックで自由自在の操船 (360度旋回)

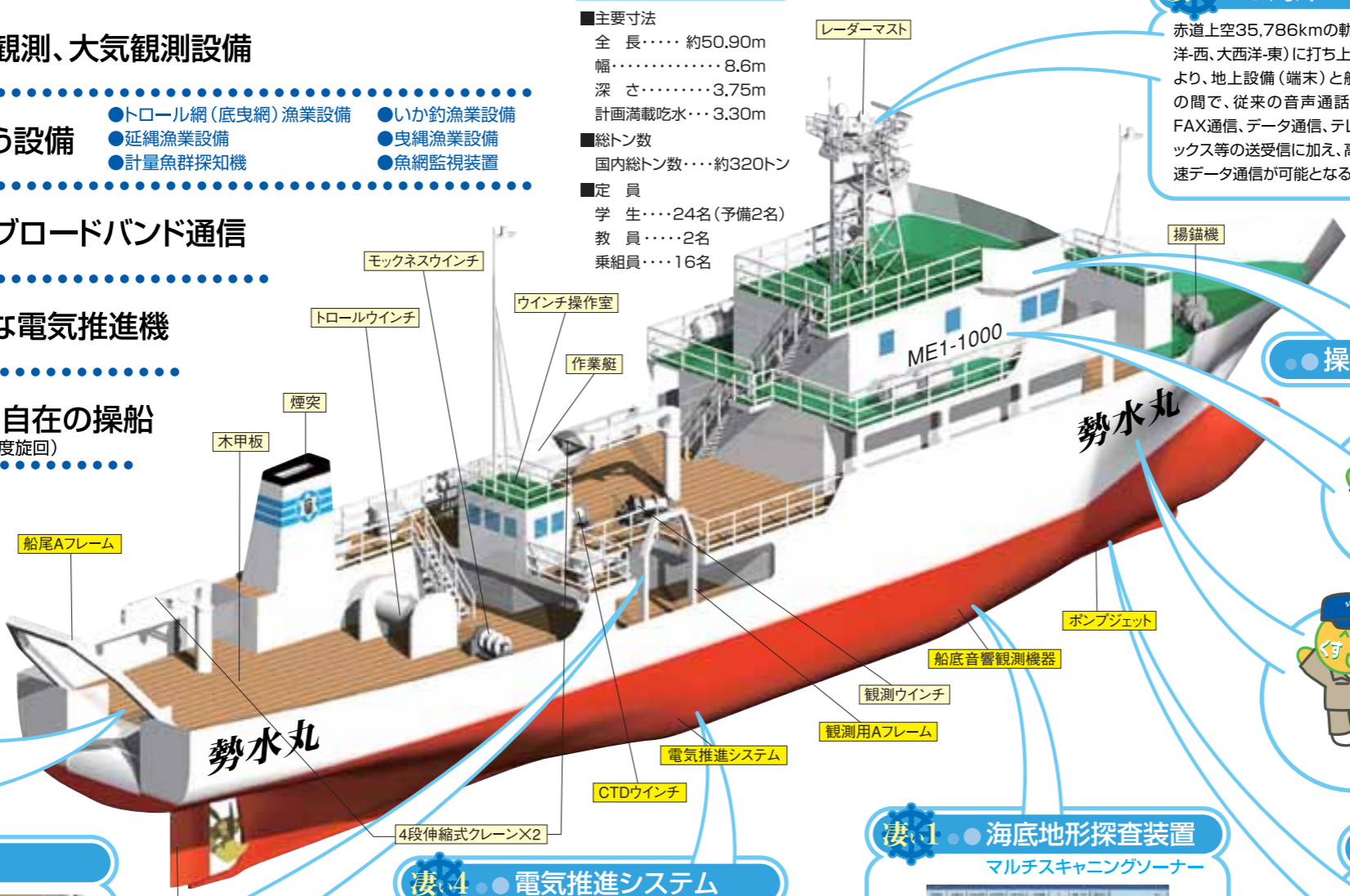
凄② 生物資源調査



凄① CTDオクトパスシステム

- C Conductivity 塩分濃度
- T Temperature 水温
- D Depth 水深

たこ足のような多くのセンサによって4000mの深さまで調べることができます



凄③ 海洋ブロードバンド通信

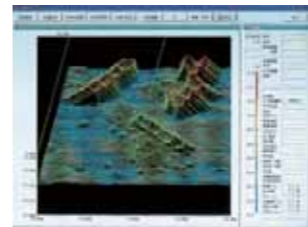
赤道上空35,786kmの軌道に4基(太平洋、インド洋、大西洋西、大西洋東)に打ち上げられたインマルサット(通信衛星)より、地上設備(端末)と船の間で、従来の音声通話、FAX通信、データ通信、テレックス等の送受信に加え、高速データ通信が可能となる



操船観測機器の集中管理



凄① 海底地形探査装置 マルチスキャンニングソナー



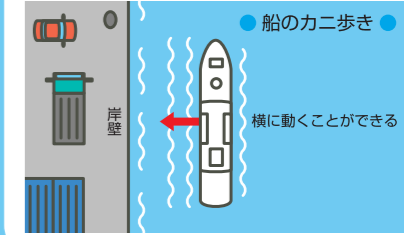
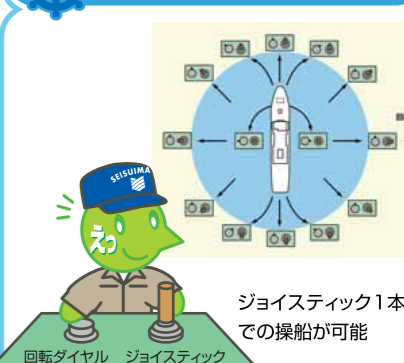
凄⑤ ポンプジェット



ポンプジェットの水の吹き出し方向を替えることにより自由な動きができる



凄⑤ システム操船装置



飛躍する新「勢水丸」

三重大学生物資源学研究所・准教授
附属練習船「勢水丸」・船長
内田 誠

[URL] <http://www.bio.mie-u.ac.jp/docs0/seisuiamaru/indexj.html>

伊勢湾・熊野灘・黒潮流域の動く洋上の研究施設として、生物資源学研究所のみならず地域の海洋、水産研究の中核施設としての活躍が期待されています。